

昔の生活を知る学習や郷土学習のために 沢山の小学生が来館しています。

2月に町内3校の小学生が、「昔の暮らし・昔の道具を調べる」（上西春別小・中西小）、「総合学習のまとめ」（別海小）の授業で来館されました。

「昔の暮らし・昔の道具を調べる」は、主に昭和初期からの開拓時代の生活道具を見学しその使用方法などを調べる授業です。見学以外にもいくつか昔の道具を実際に使用して理解を深めてもらいます。体験出来る主な道具は、「灯油ランプ」「火鉢」「火のし」「炭火アイロン」「湯たんぽ」「洗濯板」「せんべい焼き」などです。なかでも「せんべい焼き」は1番人気があり、自分で焼いて食べる事が出来ます。便利な生活をしている中で昔の道具を使うと、準備などに手間がかかり、その取扱いも不便さを感じます。昔の生活の中では、常に密着し関連性のあるもので、知恵と工夫が隠されていることを学ぶ事が出来たかと思います。

「総合学習のまとめ」の授業は、1年間通して学習してきた別海町の歴史と自然について改めて館内を見学し理解を深める授業となりました。体験として「勾玉づくり」を行いました。このように多くの学校に利活用されるようメニューを増やし対応していきたいと考えています。



ふるさと講座・自然系第3回目のお知らせ！

オジロワシ・オオワシ観察会！

オジロワシ・オオワシを主に観察しますが、春の渡りの季節で、たくさんの鳥たちが観察できるととても欲張りな観察会です。ぜひ、ご参加ください。

●日 時 平成27年3月22日（日）

午前9時～12時

●場 所 風蓮湖・走古丹方面

●講 師 別海町郷土研究会 会長 渡辺 昇 氏

●集 合 郷土資料館へ9時までに集合

観察場所への移動は、当館で送迎しますが、
自家用車での移動もできます。

●定 員 15名（3月20日（金）までに電話・FAX・メールにて氏名・電話番号をご連絡ください。）

●持 物 双眼鏡・図鑑（当館で若干貸出しします。）長靴を必ず着用ください。

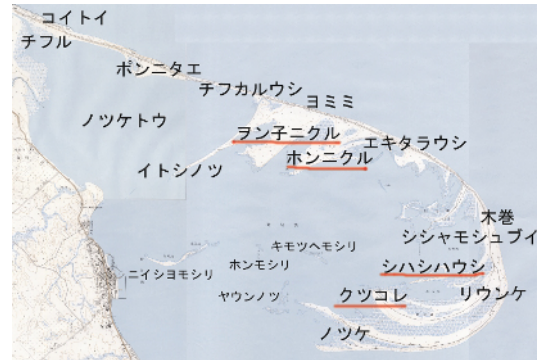


シリーズ「近世の別海を探る 野付～その12」

クツコレ

文献史料での標記は、「クツコレ」「クツコル」などがあり、松浦武四郎の資料に記述されます。

『初航蝦夷日誌』弘化2年(1845)『東西蝦夷山川地理取調図十四』
安政6年(1859)松浦武四郎



シハシハウシ

文献史料での標記は、「シュウシ」「シハシハウシ」「シユシユウシ」などがあります。幕府直轄時代 寛政11年(1799)～文政3年(1820)の文献史料からこの地名が登場しますが、地名のみの記述であり、唯一、松浦武四郎は、「シユシユウシ 平地」と記述しています。

『大日本沿海地図蝦夷地名表』伊能忠敬 寛政12年(1800)、『初航蝦夷日誌』弘化2年(1845)・『竹四郎廻浦日記』安政3年(1856)・『東西蝦夷山川地理取調図十四』安政6年(1859)以上松浦武四郎

ヲン子ニクル

文献史料での標記は、「ヲン子ニクル」です。松前藩復領時代 文政4年(1821)～安政元年(1854)の文献史料からこの地名が登場します。観光名所ナラワラの奥の森を言います。

『古人の邑嚙 嘉永七甲寅年閏七月〔子モロ場所〕』加賀伝蔵 嘉永7年(1854)、『根室旧貫誌』喜多野省吾 安政5年(1858)

『初航蝦夷日誌』弘化2年(1845)・『東西蝦夷山川地理取調図十四』安政6年(1859)以上松浦武四郎



地名の由来：オンネ ニクリ「大樹蔭」『北海道蝦夷語地名解』永田方生 明治24年(1891)

ホンニクル

文献史料での標記は、「ホンニクル」です。松前藩復領時代 文政4年(1821)～安政元年(1854)の文献史料からこの地名が登場します。

『古人の邑嚙 嘉永七甲寅年閏七月〔子モロ場所〕』加賀伝蔵 嘉永7年(1854)、『根室旧貫誌』喜多野省吾 安政5年(1858)、『竹四郎廻浦日記』安政3年(1856)・『東西蝦夷山川地理取調図十四』安政6年(1859)以上松浦武四郎

地名の由来

ホンニクル「小 木原影」『丙寅慶応二年正月吉日万覚帳安政六未年子モロ地名和解書』加賀伝蔵 安政6年(1859)
ポン ニクル「小樹蔭」『北海道蝦夷語地名解』永田方生 明治24年(1891)

別海町郷土資料館だより No.188

発行日 平成27年3月3日

発行所 別海町郷土資料館

別海町別海宮舞町 30 番地

電話 0153-75-0802 (FAX 兼)

e-mail kyoudo@betsukai.jp

編集後記

平成26年度も今月で終わり、出会いと別れの季節、そして春到来の季節となりました。度重なる暴風雪で大変な年となりましたが、災害のない穏やかな春を迎えたいと願っております。(K.I)